北九州市ぶらり散策

北九州市立医療センターの周囲には、商業施設や公園、史跡などが点在し、快適な生活環境が整っています。また、小倉駅も近く、モノレール旦過駅より徒歩2分という便利なアクセスも特徴の一つです。

① 小倉城

戦国末期（1569年）に毛利氏が築城。天守閣の「唐造り（からづくり）の天守」や、城の石垣は切り石を使わない野面積み（のづらづみ）が特徴で、素朴ながらも豪快な風情にあふれています。北九州市のシンボルとして愛される建造物です。

② 小倉駅ビル

北九州市の玄関・小倉駅は、モノレール・JR・バスの交通機関の起点です。また、駅には商業施設やホテルも併設されており、多くの人で賑わいます。

③ 旦過市場

大正時代の始めより今なお市民に親しまれる「北九州市の台所」といえば、旦過市場。新鮮な食材が所狭しと並ぶ風情ある市場です。

④ 新勝山公園

小倉城、紫川の近くにある都心部のオアシスは、市民の憩いの場として、ウォーキングやランニングなど、多くの方が利用しています。

⑤ 北九州市 漫画ミュージアム

「見る・読む・描く」をテーマに漫画文化を紹介。約5万冊の漫画を自由に閲覧できるコーナーがあります。

北九州市立医療センター

〒802-8561 北九州市小倉北区馬借二丁目1番1号 ☎093-541-1831（代表）

アクセス
【モノレール】旦過駅より徒歩2分
【西鉄バス】市立医療センター前下車

下記QRコードで当院HPへアクセスできます。

■病院見学・採用試験のお問い合わせ先

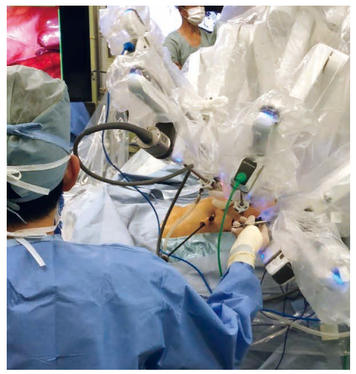
北九州市立医療センター事務局経営企画課　☎093-541-1831（内線3124）

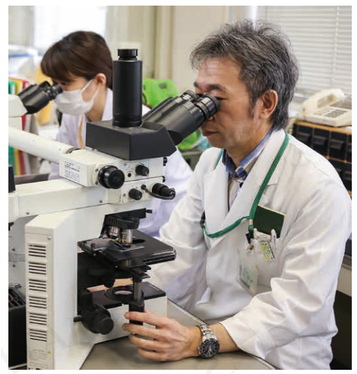
〒802-8561 北九州市小倉北区馬借二丁目1番1号

Email | byou-iryou-keiei-staff02@kitakyu-cho.jp　URL | https://www.kitakyu-cho.jp/center/

初期　後期

臨床研修医募集のご案内





北九州市立医療センター

Kitakyushu
Municipal Medical Center

みなさんへのメッセージ

地域とともに歩む基幹病院として最高・最良の医療を目指しています

院長　**中野 徹**
Toru Nakano

当院は、時代の変化に対応しながら140年あまりの歴史を刻んできた市立病院です。心のこもった最高・最良の医療を目指し、また、地域に根ざした医療を提供する基幹病院として、北九州市の医療を担っています。「充実したがん医療」、「確かな総合周産期母子医療センター」、「地域に根ざした生活習慣病のケア」は当院が掲げる3つのテーマです。総合的ながん治療およびがんセンターの機能を整備した「がん診療連携拠点病院」であり、リスクの高い出産に対応する「総合周産期母子医療センター」を備え、生活習慣病の分野では各々の診療科が専門性を発揮しながら充実を図ってきました。優秀で意識の高い医療スタッフがチーム医療を行いつつ、地域と連携した医療を展開していくことを当院の使命ととらえ、さらなる安心と信頼に向けて、これからも努力を続けていきます。

広範で専門性が高い研修しかも研修医一人ひとりに合わせたオーダーメード

副院長・臨床研修プログラム責任者　**西原 一善**
Kazuyoshi Nishihara

当院は、がん、周産期母子、生活習慣病の三つを重点に急性期病院として地域の医療を担っています。内科系、外科系とも各分野に経験豊富な指導医がそろい、広範かつ専門性の高い研修を受けることができます。優れた臨床専門医、地域医療を担う医師、新しい医学・医療の発展・開発を目指す医師など、将来構想を持つ若い医師を、多くの協力病院や九州大学、産業医科大学、福岡大学と連携して、一人ひとりの研修のアウトカムを明確にし、ニーズやスタイルに合わせ、支援・育成していきます。

当センターの特徴

充実したがん診療

厚生労働大臣から「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」の指定を受け、わが国に多い5大がん（肺がん、乳がん、胃がん、肝がん、大腸がん）を中心に、最新の医療機器を備え、地域の医療機関と緊密な連携と協力を取りながら、継続的に質の高いがん医療を行っています。がん登録患者数は、2,424名（H30年）です。

確かな総合周産期母子医療センター

「総合周産期母子医療センター」では、北九州市内だけでなく福岡県東南部、大分県北部までの周産期救急医療を担っています。母性胎児部門、新生児内科部門および新生児外科部門の専門医やスタッフの連携のもと、24時間体制で出生前から出生後まで、母児への集中治療を行っています。

地域に根ざした生活習慣病のケア

生活習慣病とは、生活習慣（life style）が要因となって発生する諸疾病で、適切な指導や治療を受けずに、そのまま放置してしまうと、生命の危機に瀕する病気や後遺症が残る病気を引き起こす可能性が高くなります。北九州市立医療センターでは、それらの基礎疾患というべき高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満などの治療を行うとともに、その予防を目指して強力な啓発活動を行っています。

高精度医療機器紹介

手術支援ロボット「ダヴィンチ」
「ダヴィンチ」は、低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能とするロボットです。当院では令和元年9月に、「ダヴィンチ」を導入し、2ヶ月ほどの準備期間を経て、11月に初症例を実施しました。現在、当院では泌尿器科（前立腺がん・腎臓がん）、外科（胃がん・直腸がん）で手術を実施しております。今後診療科・症例を順次拡大する予定です。

リニアック
通常の外部照射のみでなく、高精度放射線治療も行っています。特に全身照射（TBI）や定位放射線治療、前立腺の強度変調放射線治療（IMRT）も行っており、がん診療連携拠点病院として全国的にも実績があり、有数の患者数を誇っています。

頭腹部血管造影装置
Cone Beam CT（CBCT）ができるようになり、より正確な診断・治療が可能です。また、患者の被ばく線量はもちろん術者の被ばく管理も行っています。

マンモグラフィ
乳がんの患者数も多く、マンモグラフィで早期発見をすることができます。

256列CT
高速なマルチスライスCTなので短時間で多くの画像が取得できます。手術目的のCTでは3次元画像を提供し、術式支援を積極的に行っています。被ばく低減に向けて工夫もしています。

診療実績データ

病床数　585床

- 一般病棟 …… 569床
  - 特定入院料
    - ICU …… 6床　・MFICU …… 6床
    - NICU …… 9床　・GCU …… 21床
    - 緩和ケア病棟 …… 20床
- 感染症病棟 …… 16床

7対1入院基本料

診療科目

内科、総合診療科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科、内分泌代謝・糖尿病内科、緩和ケア内科、心療内科、精神科、小児科、小児外科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科

施設認定

- ○地域がん診療連携拠点病院（高度型）
- ○地域医療支援病院
- ○総合周産期母子医療センター
- ○災害拠点病院
- ○第二種感染病指定医療機関
- ○臨床研修指定病院（基幹型・協力型）　等

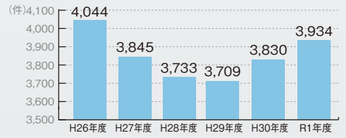
医師数合計　153名　（R2.4.1現在）

- ○正規常勤医師 …… 122名
- ○嘱託・委託医師 …… 8名
- ○後期臨床研修医（レジデント） …… 13名
- ○初期臨床研修医 …… 10名

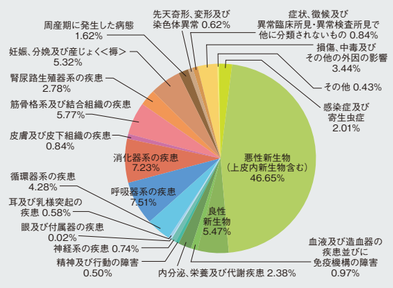
患者数　（R1年度実績）

- ○外来患者数 …… 1,090.8名（1日平均）
- ○入院患者数 …… 420.9名（1日平均）
- ○救急搬送者数 …… 128名（月平均）

手術件数推移



R1年度 退院患者疾患分類（n=10,770）



充実したがん診療

がん登録患者2,424名の北九州市立医療センターは、「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」として、多様な症例に対し各科が連携し、迅速で的確な治療を行っています。

内科（血液）　前進あるのみ！

年間で臍帯血移植が約30例、総移植は50例強、いずれも国内で高い症例数です。無菌室は23床を保持し、悪性疾患であっても諦めずに患者さんと共に闘う環境が整っています。研修では早くからいろいろな移植法を経験でき、スタッフが丁寧に指導します。

副院長（血液疾患）
大野 裕樹
Yuju Ono

内科（肝臓）　肝炎・肝硬変から肝がんまであらゆる肝臓病を経験できます

侵襲が少なく、外科手術に匹敵するカテーテル治療やラジオ波焼灼療法を、より安全に、難しい病変へのアプローチも行っています。現場での臨床経験と医学としての研究、医師にとってはどちらも大切なので、両方を身につけてほしいと思います。

主任部長（肝臓病）
重松 宏尚
Hirohisa Shigematsu

内科（膠原病）　あらゆる膠原病を軽症から重症まで

膠原病にはたくさんの種類があるだけでなく、それぞれの疾患において、軽症から臓器合併症や重症感染症を伴ったCritical Careを要する重症例までさまざまです。専門的な膠原病診療と同時に総合的に内科疾患を経験できます。

統括部長（膠原病）
西坂 浩明
Hiroaki Nishizaka

消化器内科　消化器診療を極める！

早期消化管がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術は年間300例弱を経験し、九州トップクラスです。食道、胃、大腸、膵がんなどの化学療法や炎症性腸疾患も数多く診ています。拡大・胆膵・超音波内視鏡検査などは研修期間中にぜひ習得してほしい技術です。

副院長（消化器内科）
秋穂 裕唯
Hirotada Akiho

呼吸器内科　肺がん治療の地域中核施設

日本呼吸器内視鏡学会の指導医、専門医が在籍し的確な診断と治療を行っています。最新の設備を導入しており、直近では気管支内視鏡システムを更新しました。周辺の基幹病院や大学病院からも患者さんの紹介があり、研修では多くの呼吸器疾患を学ぶことができます。

主任部長（呼吸器疾患、肺がん）
井上 孝治
Koji Inoue

腫瘍内科　年間10,000件以上、安全な抗がん薬治療

九州でも屈指の症例件数である外来化学療法センターに常駐し、さまざまな悪性腫瘍疾患に対する抗がん薬治療を支持療法や症状緩和療法を含め経験する環境が整っています。そして、肉腫などの希少癌診療に携われ、がん薬物療法専門医としてのスキルを身につけることができます。

主任部長（固形腫瘍、化学療法）
佐藤 栄一
Eiichi Sato

外科（消化器）　内視鏡手術の最高峰を目指して

ハイビジョン内視鏡手術システムなど先進的な手術機器が複数台揃い、質を落とすことなく低侵襲の内視鏡手術を多数行っています。各臓器の専門医による、西日本有数のがん手術症例数で多種多様な手術が経験でき、研修でも基本的な手術手技が習得できます。

副院長（肝臓外科、胆道外科、消化器がん）
西原 一善
Kazuyoshi Nishihara

外科（乳房・甲状腺）　外科専門医から乳腺専門医を目指す方へ

乳癌手術症例数は2014年以降は毎年380例を超えます。甲状腺・副甲状腺の手術は毎年70～80症例。乳房再建の組織拡張器挿入術は形成外科医と連携して行います。診断から手術、薬物治療に至るプロセスを多数経験することで、自然とスキルが身についていきます。

統括部長（乳がん）
阿南 敬生
Keisei Anan

呼吸器外科　拡大手術から縮小手術・胸腔鏡手術まであらゆる対応が可能

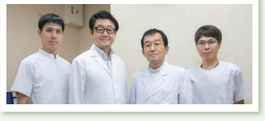
肺がんをはじめとする手術症例数が豊富で、あらゆる呼吸器疾患に柔軟に対応しています。手術だけでなく術後の管理まで、チーム医療を通じて総合的な治療体制が整っています。短期間の研修でも多くのことが学べ、どの科に進んでも役立つ指導を行います。

統括部長（呼吸器・縦隔・胸壁の外科治療、肺がんの外科治療、胸腔鏡手術）
濵武 基陽
Motoharu Hamatake

泌尿器科　後腹膜疾患のスペシャリストを目指して

後腹膜臓器や男性器疾患の診断と治療を担う専門性の高い診療科です。研修では、ダヴィンチによる先進的低侵襲手術や進行癌に対する薬物療法などを通じて、後腹膜臓器の理解や尿路の管理など、基本的かつ重要なスキルが習得できるように指導しています。

主任部長（泌尿器腫瘍学、内視鏡手術）
立神 勝則
Katsunori Tatsugami



充実したがん診療

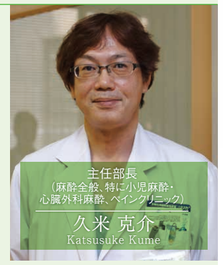
耳鼻咽喉科　一般耳鼻科症例から頭頸部がんまで

北九州市内で耳鼻咽喉科常勤医が4名いる病院は大学病院を除いて3つのみです。頭頸部がんも含め耳鼻咽喉科疾患全般に対応しており沢山の症例を経験出来ます。また気道の評価・気管切開の手技など、どの科に進んだ時も役立つ知識なども指導します。

主任部長
（一般耳鼻咽喉科）
竹内 寅之進
Toranoshin Takeuchi

麻酔科　あらゆる手術の麻酔 すべての痛みの治療

最新の麻酔器や喉頭鏡などの機器を早くから導入し、豊富な知識と適切な判断で、効果的で負担の少ない麻酔方法を選択しています。呼吸管理は治療の第一歩であり、医師としての基本的な知識や技術に加え、挿管作業などを通じて救急にも役立つ経験が得られます。



主任部長
（麻酔全般、特に小児麻酔・心臓外科麻酔、ペインクリニック）
久米 克介
Katsusuke Kume

放射線科　全身くまなく

日本医学放射線学会専門医総合修練機関病院、日本放射線腫瘍学会放射線治療認定施設として、高機能病院のなかで重要な診療部門を担っています。広く深く総合的に、放射線による全身診断・治療、他科との連携など、研修時にも幅広く専門的な経験ができます。

副院長
（画像診断全般、胸部画像診断）
渡辺 秀幸
Hideyuki Watanabe

病理診断科　腫瘍病理のすべてがここに

手術症例が多く（特に腫瘍）、多種の臓器の検体があり、短期間でも多数の症例を経験可能で、病理診断を多角的に感じることができます。病院病理医は経験が重要なため、研修においても色々な検体を見ることができる当センターは、その点も充実しています。

統括部長
（病理全般・骨軟部腫瘍）
田宮 貞史
Sadafumi Tamiya

緩和ケア内科／PCT　早期からの緩和ケア 一人ひとりを大切に

患者さんの身体面だけではなく、心理・精神面や社会的な背景を大事にして、がんと診断された早期から全人的にケアしています（PCT）。緩和ケア病棟では、がん末期の患者さんの苦痛を和らげ、ご家族にも配慮することができる質の高いケアを実践しています。

主任部長
（緩和ケア内科）
大場 秀夫
Hideo Oba

確かな総合周産期母子医療センター

各部門の専門医やスタッフが連携を取り合い、24時間体制で出生前から出生後まで、母児への集中治療を行っています。

総合周産期母子医療センター　QOLそのまま1年で3年分のスキル

北九州市東部から福岡県東南部、大分県北部までの周産期救急医療を担い、西日本でも有数の病床数です。他科や看護スタッフとの連携が常に円滑に迅速に当たり前に行われている理想的な環境で、医師のQOLを保ちながら1年で3年分のスキルが習得できます。

センター長
（周産期医学）
髙島 健
Takeshi Takashima

産婦人科　産婦人科スイッチ

日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設に認定され、女性の人生の大きな部分に関わるがん診療の専門科として、治療ガイドラインに則った最適・最良の標準治療を行っています。また、女性医師も年々多くなり、働きやすい職場づくりにも取り組んでいます。

副院長
（婦人科腫瘍）
尼田 覚
Satoshi Amada

小児科　日常診療から高度診療まで

専門医6名が在籍する小児科専門研修施設です。また、総合周産期母子医療センターに指定されているため、新生児医療の中核としても機能しています。市立病院としての役割と高度医療の両方を実践しており、研修の場としての懐の深さも実感できます。

主任部長
（感染症・ワクチン）
日高 靖文
Yasufumi Hidaka

小児外科　手術と全身管理 -新生児から成人に至るまで-

日本小児外科学会指導医が在籍する日本小児外科学会教育関連施設であり、1,000g未満の超低出体重児などを含めた新生児外科手術から、より傷の少ない小児の鏡視下手術、成人期に移行した小児外科疾患の診療まで幅広く行っています。専門性が高い科ですが、外科の基本手技から幅広い疾患の経験を含めた研修を行うことができます。

主任部長
（代謝栄養管理・新生児外科、内視鏡外科）
中村 晶俊
Masatoshi Nakamura

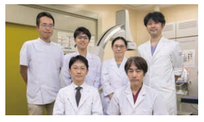
地域に根ざした生活習慣病のケア

食事や運動など日常の生活習慣が引き起こすさまざまな病気に対して、各科が連携し治療や指導に取り組んでいます。

循環器内科　患者さんから学ぶ!

心臓カテーテル検査をはじめ、心エコー、CT、シンチ検査、CPX（呼気ガス分析装置）等を用いて各疾患の評価を行っています。基本的アプローチから治療に至るまで、じっくりと患者さんと向き合うことで、自分の専門分野以外の知識も増え、考えの幅が広がります。

統括部長
（循環器、心不全、虚血性心疾患）
沼口 宏太郎
Koutaro Numaguchi



内分泌代謝・糖尿病内科　糖尿病、内分泌代謝疾患を幅広く経験できます！

1型糖尿病の症例や、副腎、下垂体などの内分泌の症例が多いのが、当科の特徴です。学会の教育認定施設であり、糖尿病、内分泌の症例は豊富です。将来の代謝疾患の診療の礎となるよう指導を行います。

主任部長
（糖尿病、内分泌代謝、老年病、肥満症、骨粗鬆症）
足立 雅広
Masahiro Adachi

総合診療科　目指せ！全人医療

単一疾患のみならず複数疾患の可能性や、疾病だけでなく社会的・精神的問題なども鑑みて、全人的なアプローチによる診断・治療を目指しています。研修では一般的なものからレアケースまでさまざまな症例において、診療姿勢や対応方法などが学べます。

主任部長
（総合診療科、感染症内科）
内田 勇二郎
Yujiro Uchida

皮膚科　多彩で豊富な症例数

皮膚科医が3人常勤している病院は市内に2つのみです。皮膚疾患全般を対象とした普遍的な治療を心掛け、近隣病院との合同臨床病理検討会なども積極的に実施しています。真菌症から悪性腫瘍まで豊富な症例を経験でき、研修では皮膚外科の基礎を指導します。

主任部長
（皮膚科学全般）
廣瀬 朋子
Tomoko Hirose

整形外科　運動器の専門集団：整形外科

国民の有訴率の1位は腰痛、2位が肩痛です。医師として、将来必ず遭遇するそれらの訴えを正しく診察・治療する為には、整形外科を研修しておく必要があります。当科では、腰と肩に加え、股関節・膝関節の専門医が在籍しており、研修を歓迎します。

主任部長
（整形外科、脊椎外科）
西井 章裕
Akihiro Nishii

脳神経外科　一人ひとりに最適な医療を考える

脳血管障害、脳腫瘍を中心に、外傷、先天奇形、機能外科など多岐にわたり神経系疾患を担当しています。外科治療のみではなく、脳卒中治療全般を経験できます。症例より学び、最適な医療を目指し深く考えることで臨床医として成長できるよう分かりやすく指導します。

部長
（脳腫瘍、脳血管障害）
塚本 春寿
Haruhisa Tsukamoto

心臓血管外科　最適な手術を的確に！

1,000例を超える冠動脈バイパス術をはじめ豊富な臨床経験を有する主任部長を中心としたチームで、超緊急手術にも対応しています。無駄のない的確な手技で、可能な限り侵襲を少なくするよう努力しています。研修では優しく厳しく、懇切丁寧に指導します。

統括部長
（虚血性心臓病、弁膜症、大動脈疾患など
成人心臓血管外科一般、ペースメーカー（ICDなど
植込み型心臓治療器を用いた心臓治療）
坂本 真人
Masato Sakamoto

心療内科　こころとからだは分けられない

人は心と身体の統合体です。当科では、支持的カウンセリングや行動療法、精神分析などの精神療法を中心としたアプローチを行い、患者さんの苦しみや不安を和らげます。他科の研修中に、心理社会的ストレスの影響が考えられる疾患について相談に応じています。

主任部長
（心身医学全般）
福留 克行
Katsuyuki Fukudome

看護部　心温まる看護を提供しています。

看護部長　林 和子　Kazuko Hayashi

患者さんの“一番身近な存在”として、質の高い心温まる看護を提供しています。人材育成にも努め、現在、12分野22名の認定看護師が各分野で活躍中です。600名を超すスタッフがチーム医療の一員として、高い意識と看護技術でしっかりとサポートしています。

臨床研修プログラム

北九州市立医療センターでは、多種多様な症例を通じて基礎的な知識から技能の体得まで身につけることができます。豊富な診療科と実践的な研修が大きな特徴で、今後医師としての可能性・方向性を定めるために必要なことが研修プログラムの中で学ぶことができます。

初期臨床研修プログラム

医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、一般的な診療において頻繁にかかわる疾病に対応できるよう、プライマリケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につける。
医学の進歩に対応してみずから診療能力を開発しうる基礎を養うとともに、医療における人間関係、特に医師と患者との関係についての理解を深め、あわせて医の倫理を体得し、医師としての資質の向上をはかる。

●研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科							救急			麻酔科	
2年次	外科		小児科		産婦人科		精神科	地域医療	選択科			

※ローテート各科において、症例検討会、カンファレンス、抄読会等を定期的に行っています。
※全研修期間を通し、4週間以上の外来研修を実施します。　※救急部門（必修）のうち、4週を限度に麻酔科の研修とすることができます。

●プログラムの特徴

豊富な診療科

内科、外科をはじめ、呼吸器内科、心療内科、整形外科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科など研修に必要なあらゆる専門科目がそろっており、俯瞰的にも希求的にも研修することができます。

実践型の研修

「まず一度はやってみる」という実践型の教育体制であり、マンツーマンに近い指導のもと根拠や他の可能性を考えつつ多くの実践を重ねることで、早く体で覚えることができます。

ピックアップ

・「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」に指定されているため、悪性腫瘍疾患の比率が高く、化学療法等の研修ができます。
・「総合周産期母子医療センター」を開設しており、産科、新生児科及び小児外科の充実した研修ができます。

●救急部門

年間1,500件あまりの救急搬送に、症状・疾患にそれぞれ適した専門各科が対応し、研修の一環としています。集中治療部は6つの専用ベッドを持ち、年間300～400例の呼吸・循環不全患者の治療を行っています。また、集中的に救急・プライマリケアを実践するため、健和会大手町病院救急部もしくは市立八幡病院救急部での3ヶ月間の院外研修を取り入れています。

協力病院・施設

・健和会大手町病院（救急）
・北九州市立八幡病院（救急）
・出水市立総合医療センター（一般外来）
・矢津内科消化器科クリニック（地域医療）
・清陵会南ヶ丘病院（精神科）

●初期臨床研修医の処遇

R2.4.1現在

処遇	1年次	2年次
給料（月額）	320,000円	340,000円
宿日直補助手当（回額）	5,200円	
社会保険等	健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険あり	
医師賠償責任保険	あり	
宿舎等	単身用、世帯用あり（民間マンション借上げ）　※敷金、礼金、清掃料等の入退居時の一時的な費用、及び毎月の賃貸料の半額程度を病院で負担します。	
研修後の進路	当院の後期研修医として勤務することが可能です。　※希望科については選考によります。	

後期臨床（専門医）研修プログラム

従来と異なる形態で2018年より「新専門医制度」が開始されました。当医療センターには、研修指導に積極的に取り組む専門医が、基本診療領域およびサブスペシャリティ領域に多く在籍しています。初期・後期研修中に多様な疾患を経験することは、専門医となるための第一の条件です。初期研修に続けて後期研修（専門医研修）を当センターで受けられることをお薦めします。

●大学と連動した研修プログラム

九州大学、産業医科大学の医局より多くの後期研修医（専攻医）を迎え入れています。各診療科のプログラムに沿って専門医取得を目指しています。

●主な後期（専門医）研修プログラム（詳細につきましては、北九州市立医療センターホームページをご覧ください。）

❶ 内科系（基幹型）
内科医としてあるいは内科系診療科の専門医としての能力修得を目的とし、認定医取得後は各専門学会が提供する専門医を目指す。当院で取得可能な資格：総合内科専門医、消化器病専門医、呼吸器専門医、循環器専門医、糖尿病専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医、リウマチ専門医、感染症専門医、がん薬物療法専門医、内分泌専門医、老年病専門医。

❷ 外科（基幹型）
基幹学会としての外科学会認定外科専門医を得ることを目的とする。一般外科は消化器、乳腺・内分泌を中心に診療を行い、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科の各科と協力し外科専門医取得のためのプログラムを作成。専門医制度修練施設認定：外科学会、消化器外科学会、肝胆膵外科学会高度技能、乳癌学会、内分泌・甲状腺外科学会。

❸ 周産期
産科、婦人科、新生児科、小児科、小児外科、八幡病院救急を選択可能な診療科とし、この中から専門医資格取得を想定して診療科を選択、プログラムを作成する。一診療科の期間は3ヶ月を最短期間とする。

❹ 消化器内科
一人ひとり独自の研修を十分相談検討しながら、目標を据えて計画する。通常の消化管内視鏡検査、消化管透視に加え、胃のESDを早期から研修する。最先端の技術を教えることで、消化器専門医としての自覚を持つと同時に診断的な目を養う。

❺ 皮膚科
外来の一般的な皮膚疾患から、入院を要する重症例まで全般的に皮膚に関わる疾患を診療できる能力を身につけることを目標とし、皮膚科学会認定皮膚科専門医取得に向け準備をする。皮膚を診ることにより医師として系統的な疾患の理解と治療が出来る知識と判断力を身につける。

❻ 麻酔科（基幹型）
周術期患者の呼吸循環を中心とした急性の病態変化を把握し制御すること、外科的治療が安全かつ効率的に行われ患者への侵襲を最小限にすることを成し遂げる知識と技能を身につける。麻酔科学会専門医・指導医の取得はもちろんのこと、ペインクリニック、緩和ケアの専門医取得への研修を、高い水準で同時かつ十二分に行える。

その他…❼循環器内科、❽呼吸器内科、❾総合診療科、❿小児科、⓫産婦人科

●後期臨床研修医（レジデント）の処遇

R2.4.1現在

処遇	1年次	2年次	3年次
給料（月額）	350,000円	400,000円	500,000円
宿日直手当（回額）	20,000円		
社会保険等	健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険あり		
医師賠償責任保険	あり		
宿舎等	単身用、世帯用あり（民間マンション借上げ）　※敷金、礼金、清掃料等の入退居時の一時的な費用を病院で負担します。		
研修後の進路	その後のスタッフへの採用も考慮します		

病院見学について

当センターでは、随時病院見学を受け付けております。
ご希望の方はお気軽にお申込みください。

日程　随時

時間　8:30～9:00 オリエンテーション
9:00～　院内見学

申込　下記お問い合わせ先にご連絡ください。
※申込時に、興味のある診療科がありましたら、お知らせください。
当日の見学内容を検討いたします。

北九州市立医療センター事務局経営企画課　☎093-541-1831（内線3124）
〒802-8561 北九州市小倉北区馬借二丁目1番1号
● Email｜byou-iryou-keiei-staff02@kitakyu-cho.jp　● URL｜https://www.kitakyu-cho.jp/center/